

自己評価及び外部評価結果(表紙、アウトカム項目)

(別紙4) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人 社団一就会		
事業所名	グループホーム湯と里		
所在地	伊豆の国市長岡953-1		
自己評価作成日	平成26年1月12日	評価結果市町村受理日	平成27年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajgokensaku_ip/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2290800016-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kajgokensaku_ip/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2290800016-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の人格を尊重し寄り添い、入居者様の生活を第一に考えて日々業務している。入浴は、温泉を使用している。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の経営するグループホームのため病院が隣接していて、医療的ケアやリハビリが充実しているため、本人・家族・職員共に安心できる施設であり、施設を選ぶ条件になっている。また主治医である病院の院長先生が毎朝入居者の顔を診に来ている。長岡温泉という地域柄、施設に居ながら温泉入浴が可能で利用者は楽しみにしている。管理者・主任・ケアマネージャーは連携し、よりよくなるよう日々努力している姿がみられる。職員は理念の「入居者様に寄り添う介護」を目指している。入居者が高齢化してきて、外出なども厳しくなってきたが、それでもできることを話し合って実行している。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識するように、目につきやすい場所に掲示しており、日々入居者様の心の変化にどう寄り添うか考え実践するようにしている。	理念「入居者様に寄り添う介護」を入りに掲示し職員、家族、訪問者が見えるようにしている。会議ごとに管理者は、日々変化する入居者の体調等様子を見逃さないようにと指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々や近隣の施設より情報を頂き、お祭りなどイベントに参加している。また法人主催の健康祭りでは近隣の踊りの団体などが出演したり、訪れたりして参加している。地元出身の看護学生の実習の受け入れもやっている。	地域在住の職員からの情報や、地元の新聞より近隣の行事を把握し出かけている。法人主催の健康まつりのポスターを回覧板やごみ集積場に貼り、大勢の地域住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方や独居の高齢者の方に出会う機会があると、介護についての相談を受けたり、気軽に立ち寄って頂けるように話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	なかなか予定が合わず、開催回数が少なくなりましたが、家族の想いや考えを伺いサービス向上に活かすように努力している。こちらの取り組みについても報告し「安心して任せられる。」との言葉を頂いている。	遠方の家族に配慮し行事に合わせて開催している。家族の意見により「湯と里だより」を毎月発行することになった。市へは通知を出しているが参加していただけない。来年度から地域包括支援センターを法人系列が運営するので参加が望める。	運営推進会議は2カ月に1回以上開催することが望ましい。外部関係者の参加を得て開催し、活発な意見交換をしてサービス向上につなげていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定の更新などで市の窓口に出向くなど必要時には市との連携も視野に入れている。またボランティアの紹介も市から情報提供してもらっている。	市とは法人との関係はあるがグループホームには直接連絡のやりとりがない。訪問調査の時には来訪がある。社会福祉協議会からはボランティアを紹介してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていない。徘徊や転倒の危険がある方は付き添いや見守りを強化している。また、抑制的な発言は慎むように職員に教育している。	入居者は同じ姿勢でじっとしていることなく、自由に動くように見守りをしている。望まない対応は月1回の会議の中で話し合っ全職員で意識統一をしている。当日は職員は穏やかな口調で支援にあたっていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように常に職員全員で連携体制を取り、教育し注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方がいる。今後も、必要な方には積極的に活用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、不安や疑問には耳を傾けており、いつでも連絡を頂けるように話をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時に直接意見を伺うようにしたりして、職員全体で解決すべき所は職員会議で話し合いをして運営に反映するようにしている。	入り口に意見箱がある。家族からは、「どの時間帯に電話したらよいか。」「入居者の体調が落ち、飲み込みが悪くなった時に少しでも良いから食べさせて欲しい。」等の意見が出た。職員で要求に統一した考えを決め対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞いたり、相談をしたりしているが、毎月の職員会議では意見交換をし改善出来る事は受け入れている。	日々話し合える関係づくりを心がけている。管理者が変わり、利用者との時間を大切にするため、記録に時間をかけない工夫として、記録の項目がわかりやすいように改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで、職員への経営に関しての意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	呼びかけて研修の参加を促している。研修後は、報告書の作成と職員会議で報告をしてもらい、知識を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹施設との交流する機会を作った。管理者の方に講義をして頂いたり、職員全員が研修に行かせて頂いたりした。また、利用者と共に行事にも参加させて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を十分に傾聴し、受け止める姿勢で接し安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は、真摯に受け止め一つ一つ話し合いをし信頼関係の構築を努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人やご家族の思いや状況を確認し、改善が図られるようにしている。入居に至らない場合などは、他のサービスの紹介を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事への参加を働きかけて、一緒にやって頂き感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密に取り、ご本人の思いを伝えて、ご家族の思いを確認しながら一緒に支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	正月の帰省や正月に居室で一緒に過ごして頂くなどしている。また、馴染みの方の訪問も積極的に受け入れている。	前には近所の方が来てくれたが、高齢になり難しくなっている。隣接病院へ受診に来た人が帰りに寄ってくれる。理美容院も以前は馴染みの所へ行っていた。初めての訪問者には、不審者防止のため面会票に記入してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良い関係でいられるように、常に配慮している。話題提供したり、仲介役をしコミュニケーションが図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族が話に来られたり、ケアマネを通して、その後の様子を伺い相談を傾聴している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の介護度の中が大きいので、会話や表情からご本人の希望や意向を把握するよう努めている。それでも、困難な場合はご本人の安全を考慮して検討し実践している。	生活歴を重視し全職員で入居者の情報を把握して本人本位の対応をしている。困難な場合には、入居者に寄り添い表情から読み取っている。呼び名はさんが基本であるが「おばあちゃん」のほうが良い人には本人が望むようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や日常の会話からも、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。時には、以前利用していた事業所・病院からも情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴を把握したうえで、個々の生活リズムを理解するようにしている。また、体調や気分など日々様子観察を行い、職員間で情報共有しケアに繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室の担当職員を中心に、ご本人やご家族の思いや意見を日頃の関わりの中で伺い反映させ、モニタリングや介護計画は職員全員が確認している。リハビリについては、隣接する病院の理学療法士・作業療法士と情報交換を行い、日常生活で行えるメニューを作成して頂き実践している。	入居者の担当の職員が職員会議で意見を述べ、話し合いをし、主治医である院長先生が毎朝入居者の様子を診に來ているので、意見を聞いている。また、担当のリハビリの専門職の意見も聞いている。家族には作成後に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、特に注意すべき点などは業務日誌や個人ケースに記録し情報を共有している。また、それを介護計画に活かすようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況に応じて通院など必要な支援に対して臨機応変に個々の不安解消を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の新聞や市の広報などから情報を得て活用している。また、近隣からの情報を元に季節折々の催し物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、継続して受診出来るように支援しているが、隣接する病院にある診療科を家族とご本人の希望で主治医にするケースが多い。	隣接病院の院長先生がかかりつけ医で、毎朝来てくれるので、状態により受診に繋げている。また受診時は職員が付き添っている。他科受診は家族対応で行けない時は職員が対応している。受診情報は共有している。開設以来インフルエンザやノロウイルスは一度も出ていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック、日々の動きや表情などの変化に注意し異常の早期発見に努めている。看護師に相談し、医師に繋げることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご本人の支援に必要な情報の提供を行っている。入院中は、ご家族や相談員より様子などを伺っている。また、日頃より協力病院との連携・関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りが必要な場合は隣接する病院がで行う事が多いが、GHでの希望があった場合は主治医や職員、家族と話し合っ対応している。異変の早期発見に努め、ご家族と今後の方向性について随時相談している。	入居者が高齢化し、いつ何が起きるか分からないと職員は常々話している。看取りの体制に入る時期は医師が判断し、家族に説明している。昨年一名急変し病院で看取ったケースを体験している。緊急時の流れと連絡網が事務所に掲示している。	隣が病院で緊急対応をしてもらえらるが、職員はマニュアルや研修の必要性を感じている。近々話し合いを予定しているとのことなので成果を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応出来るようにマニュアルを整備しており、分かりやすい位置に掲示している。状況に応じて動けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、同一建物に併設する小規模多機能ホームと合同で防災訓練を開催している。また、地域の防災訓練にも参加している。	漏電が原因の夜間想定訓練を消防署立ち会いで流れを確認した。入居者が重度化しているので職員が消防署員に相談しながら訓練を行った。非常口へ集める声掛けや消防署員が入居者の代わりになり毛布の担架で避難する方法を体験した。	訓練後の課題について、全職員で話し合い次回の訓練につなげることを期待したい。また、火災訓練以外の訓練も想定し実施することを希望します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いから言葉掛けや対応に失礼のないように気をつけている。入居者様の対応で気付いた事があれば、個人的に注意するのではなく、職員全員で問題を共有し解決する為に会議で話し合うようにしている。	他の人と話すのが好きではない入居者は居室で自由に過ごしていただいている。言葉がけは新人職員にはチェックシートで身につけてもらっている。管理者は気づいたことは職員会議で全職員に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず確認している。答えやすく選びやすいように問いかけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせるように心がけているが、受診やリハビリの予定が重なった時は、職員側に合わせて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年に数回、訪問美容院をお願いしている。ご家族の希望で、ご家族の方自身が整髪される方もいる。ご本人の好みの洋服をご家族が用意して下さっている方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する病院で調理されているが、盛り付けは入居者様と一緒にしている。また、食器拭きなども一緒に行っている。週1回はお弁当を注文したり、ご希望を伺い外食したりしている。	毎週木曜日、仕出し屋からお弁当をとっている。色々入っていて量があるが入居者は楽しみにしている。夏の食欲のない時には副食主体にしたり、昨夏は流しソーメンを食べた。外食は車いすの人でも行ける所へ、病院の車で数回に分けて出かける。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量をチェックしており、必要に応じて間食の量を増やしたり、内容を変えたりしている。また、ここに合わせた形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを働きかけており、困難な方には個別に援助している。夕食後には殺菌効果がある緑茶でうがいをしている。義歯の方は、夕食後に洗浄と除菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁を減らせるようにタイミングを図り、さり気なくお誘いしている。	布パンツやリハビリパンツなど個々に対応し、日中は出来るだけトイレ誘導している。排泄記録を介護日誌に記入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳製品の提供と、夕方に運動する時間を設け参加を促している。それでも、便秘ぎみの方にはヨーグルトを個別に摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていない。一人ひとりの気持ちを確認したうえで、体調や受診などを考慮し入浴して頂いている。衛生面から、最低でも週に2回は入浴して頂くようにしている。	温泉の効能が壁に貼りだされている。日中はいつでも入浴可能で、一人ずつお湯を変えている。夏場は毎日希望することがあるが体調やリハビリをみながら対応している。足湯のみの場合もある。拒否者には声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の活動性に配慮し、午睡をして頂いている。また、臥床時間に合わせて室内の温度を調節したり安心して休んで頂けるように声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやお薬手帳を整理し管理している。薬の変更や追加等が分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の趣味や特技を活かした役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも外へ散歩に出かけ日になったほっこしたり、ドライブの計画を立て水族館などに出かけたり、回転ずしなどへ外食したりしている。	天気が良く体調が良いと外に出て近くの公園や病院の駐車場を回る。毎年イチゴ狩りに出かける。近くの旅館へひな祭りに出かける予定もある。出かけると入居者の笑顔が出て喜んでもらえ、写真を撮り家族に渡したり壁に貼ったりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に合わせて、買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が遠方の方が多いため、手紙や電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに天窓を設置して明るい光を取り込んでいる。季節感を少しでも味わって頂くように掲示物や季節の花などを飾っている。	リビングの天窓から光を取りこんでいる。夏は暑いのでテーブルの配置を変えている。壁には紙のひな人形と折り紙の飾りがあり、四季折々の写真が掲示されていて明るい雰囲気になっている。温湿度計があり管理されている。ゴミや汚物はこまめに片付け臭いにも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に気軽に腰掛けられるようにしており、一緒にテレビを見たり話をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具など馴染みの生活用品をご家族と一緒に準備して頂き、家庭の延長のように過ごされている。	前にクリニックだった所を改装しているので居室は広く、トイレのある部屋もある。入居時家族にお願いして馴染みの生活用品を持参し家庭にいる時のように過ごしてもらっている。車いすを使用したり体力の変化でベッドや家具の位置を変更している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にその人らしい生活が送れるように工夫し、混乱しないように支援している。		